

2024年5月24日

学校名 鈴鹿市立玉垣小学校

学校長名 岸原 正治

令和6年度 校内研究実施計画書

1. 研究主題および教科

○校内研究テーマ

『聴き合える学級集団づくり ―チーム担任制で動く―』 (全教科・全領域)

★学級集団づくり<人のことを大切に想って聴き合う集団> “聴く”

★教職員間の対話を通したチーム力の向上 「チーム担任制」 “訊く”

の両輪

2. 主題設定の理由(本校の課題からみえてきた研究の方向性)

校内研究とは、木原(2006)によると「学校が抱える課題の解決に向かって、教職員が共同的・組織的に、授業等の教育実践を計画・実施・評価する営み」である。では、改めて本校の課題は何か考えてみると、次のような実態がみえてきた。

<本校の課題>

- ・支援が必要な子どもの多さ。多様化。
- ・日々の子どものトラブル、その対応・・・学級の荒れ・・・
- ・担任の孤立。一人で悩む教員。学級王国。長期的な、組織的な教育になっているか疑問。
- ・日々の学級経営や授業でどうすればいいかわからない。他の人はどうしてるのだろう。わからないままやっている状態。
- ・授業(教科)の土台となる「学級集団づくり」はおろそかになっていないか。

以上のような喫緊の課題が本校には見受けられる。本校は、算数科を5年間、その後国語科を3年間研究主題に設定して進めてきた。改めて、校内研究は学校が抱える課題の解決に向かうものと捉えたとき、一教科ではなく、授業の土台となる学級経営や学級集団づくりを研究主題とすべきだと考え、今年度より方向性を新しくした。

また、本校は令和6年度人権学習の公開を控えている。人権保障部がすすめる「仲間づくり」とも連携を図りながらできる主題設定でもある。

昨年度、全校をあげて「人のことを大切に想って聴く」を大切に指導した。そのことを継続し、研究主題を「聴き合える学級集団づくり」とした。また、そこに向かうために「チーム担任制で動く」ことをもう一つの主題としている。学級担任の個業ではなく、全教員で全児童を担任として支援・指

導していくことを目標としている。

近年、担任任せの学級経営やそれによる担任の疲弊、学級の荒れ、それに伴う支援体制、学校全体の疲弊という負の連鎖が実態としてあった。担任の個業ではなく、複数の目で子どもたちを支援・指導していく必要性を感じる。そこで、チーム担任制として、学年や学校全体で子どもたちの支援・指導にあたることを研修を通して推し進めたいと考えた。自分の担任クラスの子どもたちだけでなく、全教職員が全児童に寄り添う文化を玉垣小学校に築いていくことがねらいである。

3. 研究内容および方法

3-1. 「チーム担任制」を推進するための環境整備

チーム担任制として次のような方策をとる。

- ・全クラスで「人のことを大切に想って聴く」を教室掲示し、全児童へ共通指導する。
→めざす学級集団として、「人のことを大切に想って聴く」を明確な全学級共通の目標とする。
- ・今年度より、毎週月曜日を学年会の日を設定。
→昨年度まで、学年会開催は学年任せであり、日を設定していなかった。月曜日を学年会の日として設定することで、他の会議を避け、学年会の時間を充実させる。
- ・今年度より、時間割における学年減の時間を充実。
→昨年度よりも時間割において、校務分掌減を学年減に多くまわした。このねらいは、学級事務を行うためではなく、学年で授業を見合い、児童理解に努めることをねらいとしている。
- ・学年に一人ずつ特別支援コーディネーターを配置。
→昨年度特別支援コーディネーターは学校に3名の配置だった。大規模校であり、支援の必要な児童も多く、多様なため、支援会議を企画・運営するのに大変な労力を費やした。また、支援が後手に回ることも多くあった。学年に1名ずつ特別支援コーディネーターを配置することで、各学級を見回り、困り感(児童・教師ともに)に気づき、いち早い支援体制や、荒れへの未然対応に努める。
- ・学年代表会の設定。
→チーム担任制の意識の共有。

3-2. 日常的な研究内容

「チーム担任制」で日常的に学級を公開し合う。(学年の子どもたちのことを知る。多様な見方で子ども理解をする。) いつも『学級集団づくり』という視点で他クラスを見る。

大切なことは、オープンマインドで学級を閉ざさないこと。教職員どうして気軽に訊き合うこと。“大きな特別な授業公開”ではなく、“小さいいつも通りの学級公開(授業公開)”をめざす。具体的には、次のことを検討している。

- ・学級公開期間を設け、他の学年・学級に参観しやすい環境をつくる。
- ・定期的に異学年で対話する。⇒学年だけでとどまらない教職員間の交流をめざす。
- ・定期的にミニ研修会（自主研修会）を開き、日々の学級集団づくり（授業づくり）の悩みや方略を共有する機会とする。
- ・学年の子どもたちの実態から、強みや弱みを把握し、今後の支援・指導につなげる。（夏・冬）

4. 年間研修計画

<年度当初>

- ・どんなクラスにしたいか<学級集団づくりの核となるもの>を考え直し、言語化する。
【学級プロフィール】の作成、交流 ※4月中に作成
- ・学級開きの具体化 ※始業式までに作成（学年で交流→校内研修の場で全体交流）
- ・黄金の3日間、はじめの一週間、の具体化

<通年>

- ・【学級プロフィール】のリフレクション、アップデート
- ・定期的な学級集団づくりにおける研修。対話
- ・日常的な学級（授業）公開。
- ・ミニ研修会（自主参加）の実施 …研修部でニーズに応じて定期的に企画
（例）グループ活動の仕方。給食、掃除システム。仲間づくり（学級レクなど）の取り組み。毎月恒例の取り組み。係活動。夏休み明けの学級開き。…

<夏>

- ・学級集団についての取り組みのリフレクション（成果と課題）プレゼン
- ・1学期の児童の様子からみえてきた学年としての強み・弱みを捉える。2学期以降に生かす。

<年度終わり>

- ・学級集団についての取り組みのリフレクション（成果と課題）プレゼン
- ・1年を通して児童の様子からみえてきた学年としての共通の強み・弱みをまとめる。次年度への引継ぎ・指導に生かす。

※どのような指標で「聴き合える学級集団」となったかを計るかが今後の課題

（例）子どもへのアンケート。聴き合う場面を意図した授業づくり・授業公開。等

※授業で見られる子どもの姿を具体化していくことが今後の課題

5. 資料

○チーム担任制(学年担任制)の取り組み

学年の先生全員で学年の児童全員を指導・支援する

「チーム担任」として指導することで、、、

- ・学級担任の固定的・限定的な見方ではなく、学年担任の複数の多角的な見方で児童理解をすることができる。
- ・学級担任だけからいつも指導をされるのではなく、学年担任から同じ視点で指導をされることで、児童に指導が入りやすくなる。
- ・学級担任だけからほめられるのではなく、同学年の他の先生から様々な視点でほめられることで、自己肯定感があがる。
- ・児童は、学年担任だれにでも相談できる。
- ・生活指導や家庭訪問での連携・協力につながる
- ・クラスの荒れの未然防止につながる(荒れてからの支援体制ではなく)

★「〇〇さんがこんな悪いことしてたよ。指導しといて。」ではなく、「〇〇さんがこんな悪いことしてたから、指導しといたよ。あとで話聞いてあげてね。」

★「〇〇さんがこんなステキなことしてたよ。担任からもほめてあげてね。」

○チーム担任制の具体策(どんなことができるだろう)

- ・学年内の交換授業 ※時間割に反映する必要有
- ・合同授業(体育、総合、生活など)
- ・朝(帰り)の会、モジュール学習、読み聞かせ、給食、そうじなどのローテーション
- ・学活などの授業公開(学年減の空き時間を積極活用)